

## まちづくり推進委員会第16回“地域支え合い分科会”議事録

○日時 2020年10月6日(火) 午前10時～11時10分

○開催方法 ZOOM

○参加者数 12名

東京大学高齢社会総合研究機構(IOG):3名

地域支え合い分科会:町内会7名、地域包括支援センター湘南深沢1名、市社会福祉協議会1名

### ○議事

#### 1 “コロナ禍”での近況について

★“コロナ禍”の中で100万歩を達成した。“コロナ”を恐れ回覧板も消毒する人から、従来どおりの生活をする人まで様々であり、“二極化”しているという印象がある。

★外出や人との接触が格段に少なくなった。関わっている子育て支援のNPOでは、ZOOM会議を使用しており、例年実施している子育て講座も、ZOOM活用などにより来年2月から再開する準備が進んでいる。

★“コロナ禍”でこれまでの検討内容を全面的に見直す必要があり、当分休眠するのはやむを得ない。なお、終息までの準備として、サポーターとサポート依頼者を繋ぐスマホアプリ検討のための方式案を作成してみた。

★特段に変化はない。

★“助け合いの会”では、電話でのコンタクトを行っており、引き籠っている人も元気を回復している。“会”へは、地域包括支援センター湘南鎌倉から庭の水遣りの依頼相談があった。

★私的には、“コロナ禍”のなかで、父(98歳)・母(93歳)の相次ぐ入院・手術(それぞれ別の病院)という事態が起こり、面会も制限される中で現在も対応中である。なお地域では、小学生登下校時の交通安全活動、防犯パトロール、町内清掃、1ブロック内の安否確認要員相互の連絡を続けている。

#### 2 今後の分科会について

★“コロナ禍”で、これまでの生活様式が大きく変化を余儀なくされ(キャンパスも含む)、またワクチンや治療薬の準備も1～2年は掛かりそうな中で、かえって在宅＝不安、施設＝安心の声が聞こえてくるなど、これまでとは異なる対応が求められている。

★特に、概ね85歳を境目として、例えば“移動”についても、85歳未満は多目的で外出、85歳以上は目的を限定して外出など、行動パターンに明らかに変化が見られる。つまり加齢のプロセスや障害の状況に併せて、また、その地域の実情に合わせ、高齢者が暮らしやすい生活が可能になる“自助・共助・公助”の柔軟な仕組みをどう作り、どう動かすのかを、更に具体的にイメージするかがいよいよ大切になってきた。

#### 3 地域包括支援センターの活動について

★当町内会でも23人の人がサポーターとして手をあげたが、“コロナ禍”の下、これからの地域での暮らしやすい生活を、どのように持続させていくのか、地域包括センターの関わりは、いかがですか。

★相談者が介護保険又は有償サービスの利用ができるまでの“つなぎ”として、①屋外 ②屋内 ③体調管理の面からサポートし、あるいは地域のグループに支援をお願いしている。

★同じエリアに住む安心感、近くなのですぐ対応できる柔軟さがポイントだ。

★地域包括支援センターは本来、地域に住む要介護者を公的介護制度の活用で介護し、ご家族が疲弊してしまわないようにするのが本来任務だと考えていた。大郷さんのご説明を聞いて、そこまで頼られているのかと驚くと同時に、殆どは地域社会の互助で対応すべきではないかと思う。事前配付した港南区日野南地区のボランティアによる「ちょこっと助け合い」活動も、まさしくその趣旨の活動であり、私たち支え合いの会の活動(案)に符号するところが多い。同グループが来年1月から始めようとしている「ふれあいコール」は、当町内にも、お一人暮らしでご近所付き合いに乏しい高齢者が少ないことから、検討に値すると思う。

#### 4 今後の課題

★高齢化していく町の中で“支え合い”が進むかは、“地元で、老いて弱っていく自分を素直に見せることができるか”が肝だと感じている。

★“支え合い活動”の中で特に屋内に入らないとできない支援は、町内会のボランティア活動では、支援側・依頼側とも現状では抵抗感があり無理があるので、“コロナ環境下での支援作業 “の見直しが必要。今は休眠期にあるので、活動再開に備え検討することを提案(レポート提示、掲載省略)したい。  
⇒ レポートをよく読んで、検討結果をお知らせすることにした。

★引き籠りにならないよう電話でのサポートが有益であるので、サポートを希望する人を、町内会経由で募ることも考えられる。

★サポーターとサポート希望者をマッチングするアプリとして、“GBER”というジョブマッチングアプリがあるが、これを活用できるか検討してみたい。

[https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/features/z0508\\_00004.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/features/z0508_00004.html)

★“町内の方が何を支援してほしいのか”、インタビューによる調査も考えられる。インタビューに応じてもよい人をリストアップできないか検討してほしい。

★子育て分科会で「コロナ禍に伴う生活環境アンケート」を実施し、その分析報告を町内会ホームページにアップしたので、閲覧いただきたい。

[http://oohirayama-maruyama.jp/matidukuri/kosodate/2020\\_8\\_29.pdf](http://oohirayama-maruyama.jp/matidukuri/kosodate/2020_8_29.pdf)

#### 5 まとめ

以上のことを踏まえ、必要な時期に ZOOM 打ち合わせ等を行うこととした。